

おもちゃリユースプロジェクト 東京都東村山市 × 株式会社エコランド

取組概要

日本の中古品を国内外にてリユースしている株式会社エコランドが、自治体や教育機関と連携して市・区民のおもちゃを集め、世界のほしい人へつなげることにより、ごみの排出量を削減した。同時に、まだ使えるものをリユースする体験を通して市・区民へSDGs目標「12 つくる責任 つかう責任」の浸透を図った。



おもちゃリユースプロジェクト



おもちゃリユースプロジェクトの想い

基本情報

代表地方公共団体	東京都東村山市
代表民間団体	株式会社エコランド
他の連携団体等	東村山市立大谷小学校、東村山市内全保育園
カテゴリ	廃棄物（ゴミ）対策／地域情報・行政情報発信
事業費	41万円（2022年4月～10月）
めざすSDGsゴール	11 持続可能なまちづくり 12 つくる責任
事業化までの期間	2022年2月～2022年4月

取組内容



東村山市おもちゃリユースプロジェクト概要



取り組みの様子を市民の皆さまへ報告

この取組で解決した課題	環境省が、全国の市町村及び特別地方公共団体に対して実施している「一般廃棄物処理事業実態調査」（人口10万人以上50万人未満の全国市町村の部）の「1人1日当たりのごみ排出量」の少なさにおいて、東村山市は全国10位以内に入る自治体のひとつである。同市の環境資源循環部ごみ減量推進課が、ごみ排出量を抑える方法を求めている中、かつ、同市において「東村山市わたしたちのSDGsパートナー認定制度」を設けSDGsへの取り組みを強化する中で本取り組みが実現した。 市民のご家庭に眠っているまだ使えるおもちゃをカンボジアの店舗にて直接リユースすることで、約6か月間で788kgのごみ排出削減を行った。また、「東村山市わたしたちのSDGsオープンラボ」にて現地でのリユースの様子を報告し、市や市内教育機関、市内民間企業、市民の方とともにSDGs目標の中の「12 つくる責任 つかう責任」に対するアクションを広げた。
解決に向けた手法	東村山市内の施設4か所と、市内全5つの保育園、小学校1校に、おもちゃ回収ボックスを設置し、2022年4月～10月の間で788kgのおもちゃを回収した。回収したおもちゃは、株式会社エコランドが運営するカンボジアの首都プノンペン市内にある3つの直営店舗にて販売した。市内に設置した回収ボックスからおもちゃを回収し、海外に輸出するためのコンテナ積込みの様子、現地に到着したおもちゃをコンテナから降ろし、店舗に陳列する様子、さらに、おもちゃその商品を購入したお客様の様子といったすべてのフローを市民の方に動画や写真を交えてお伝えした。この取り組みを通じ、東村山市内で排出されるはずであった788kgのごみを削減し、かつリユース先が見えることで「捨てずにリユースする」という選択を促進することができた。

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	①東村山市環境資源循環部ごみ減量推進課による、企画の推進と市民への広報・啓蒙活動を実施。 ②株式会社エコランドがカンボジアでのおもちゃリユースを実施。 ③東村山市経営政策部企画政策課による「東村山市わたしたちのSDGsオープンラボ」にて株式会社エコランドが現地でのリユースの様子を報告し、市や市内教育機関、市内民間企業、市民の方との連携の場を創り出した。
地域関係者との連携方法	東村山市経営政策部企画政策課による「東村山市わたしたちのSDGsオープンラボ」を活用し、東村山市の各部署、市内教育機関、市民、市内民間業者に対し、SDGs目標の中の「12 つくる責任 つかう責任」に対するアクションを促すため、おもちゃリユースプロジェクトの提案をした。取り組み開始後も、経過や結果を報告することで取り組みをさらに広げることができている。
資金調達方法	株式会社エコランドが運営する「エコランドファンド」を活用した。同ファンドは、株式会社エコランドのお客様からお預かりしている寄付金である。
資金調達方法の補足	「エコランドファンド」は環境／社会貢献団体への寄付又は緊急災害支援の為に運用している。
事業推進上の課題・工夫	【おもちゃに込めた思い】 ものがあふれ、捨てられているものがたくさんある世の中で、本プロジェクトでは「おもちゃ」に焦点をあてた。遊んでいた本人だけでなく家族にとっても思いが詰まったおもちゃは、使う時間が限られているなかなか捨てられない。そんな大切なものを捨てずにリユースする”というメッセージを伝えるための工夫として、「おもちゃ」を選んだのがその理由である。 【リユースの体験】 日本で不用品を集め、“海外に送ります”という方法は、今や珍しくない。しかし、それは言っても、本当に海外に渡っているのか？海外のどこに行っているのか？どこかでごみになっていないか？集められたものがどうなったのか？それが見えるプロジェクトは少ないように感じる。そこで、自社の直営店舗があるという強みを活かし、市民の方にリユースのプロセスと結果を報告することで信頼していただくことに努めた。その結果、おもちゃの回収量は増え、他の自治体でも同プロジェクトを拡大することになった。今後も継続してプロセスと結果を発信していく。

担当者のコメント

弊社は2009年から、日本の中古品を海外のお客様に販売する事業を開始致しました。
そして、2018年2月から、カンボジアに直営店舗を構え、現地のお客さまのニーズを聞いてきました。
本プロジェクト実施の背景には、東南アジアの国のどこへ行っても子どもがたくさんいて、カンボジアの店舗をはじめ、どの国でもおもちゃのニーズが高かったことがあります。
一方、日本では、子どもの数は減少していても、1人あたりの子どもにたくさんのおもちゃが集まり、遊ぶ時期が終わると家の中で長い間眠っていたり、なかなか手放すことができない現状があることを知りました。
弊社のミッションは「いらない世界を変える」です。
子どもが大きくなり、おもちゃで遊ぶ時期が過ぎても、次の世代には「ほしい」と思っている人がいます。
「いらない」と「ほしい」は、「つなく存在」と「情報」があれば、成立します。
おもちゃに詰まった想いととも、次の道へつなげられるよう、このプロジェクトをさらに広げていきたいと思います。



担当者と現地店舗スタッフ

優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	①地方創生SDGsの視点 ・持続可能な地域社会の実現に向けたビジョンを持った取組であるか ・経済・社会・環境の3側面の相乗効果・相互関連性を重視しているか ・地域の課題解決やSDGsの達成に資する取組であるか ごみの削減という、持続可能な地域社会の実現に必要な課題に対する有効なアプローチと考える。 自治体のごみ処理にかかる費用と環境負荷を軽減し、リユース先の現地では商品として販売するため、経済の循環も発生している。商品として販売できているのはニーズがある証拠である。市のごみ減量とともに、市民のSDGs目標「12 つくる責任 つかう責任」に対するアクションの訴求が期待できる。 ②ステークホルダーとの連携 ・多様なステークホルダー（地方公共団体、住民、企業・金融機関、教育・研究機関、NPO等域内外の団体等）が参画しているか ・住民の参加や理解が得られる取組であるか ・各団体の強みを生かした連携がきているか 集まっているおもちゃは、市の機関を通じてすべて市民の方から提供いただいており、プロジェクトに対する理解が広がっている。この関心の強さを見た、保育園・小学校・他民間企業からもプロジェクト実施要請があり、プロジェクトが拡大している。 ③モデル性・波及性 ・他団体のモデルとなり普遍性が高い取組であるか ・新規性やインパクトがあるか ・今後発展する見込みがある事例であるか 当初は市の施設のみだったが、保育園・小学校・民間企業・イベントへの参加への波及している。 東村山市との取り組みの実績が好評で、他の自治体とも取り組みが始まっている。 様々なもののリユースが世の中にあるが、「おもちゃ」は実施したことがないという自治体が多い。 多くの自治体や教育機関、民間企業等、分野を問わず展開が可能である。
----------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------